

..... 編集後記

◆ 今月号から、須藤定久さんの後任として編集委員長を引き受けました玉生志郎です。今までと同様に、地質ニュースが広く皆様に愛読されるように、編集委員ともども努力していきたいと考えています。よろしく願い申し上げます。

◆ 七山さんほかは、2003年十勝沖地震が発生した翌日から現地調査に入り、津波による土砂移動の実例をつぶさに観察し、その形成過程を復元しています。このような堆積物は雨が降ってしまうとなくなってしまふものなので、今回報告された堆積学的記載や写真(口絵を含む)は大変貴重なデータであります。

◆ 有田さんと須藤さんの報告は、シリーズで連載されている「砂と砂浜の地域誌」の7回目にあたるもので、今回は高知県足摺岬周辺の浜と砂を紹介しています。現地を旅しながら自然観察を楽しんでいる様子が、手に取るようにわかり、楽しい読み物風になっています。口絵を参照しながら、お楽しみ下さい。

◆ 脇田さんほかの報告は、20万分の1地質図「日本全域」のシームレス化の作業過程について詳細に説明しています。このような膨大な作業によって、はじめて一般の方々がインターネットを介して地質情報を容易に使えるようになったことが理解できます。このホームページは訪問者が10万件に達しようとしています。

◆ 小村さんの報告は、近畿周辺地域の石材(切石)のシリーズで連載されている4回目にあたるものです。大阪城の石垣が小豆島の採石場から運ばれた歴史的事実を生き生きと描いています。歯切れの

よい文章は講談を聞いているような気分にさせてくれます。

◆ 地質調査総合センターの2005年度の成果普及活動について報告されました。この通り、地質調査総合センターからは多様な情報が発信されています。

◆ 吉田さんからは、平成17年度の地質標本館来訪者アンケートの集計結果が報告されました。入館者数は毎年増加していますが、来館者からは、より質の高い内容が求められているようです。標本館のスタッフは、週末も休まずに献身的に対応し、一人でも多くの方が地球に興味を持って頂けることを夢見て、がんばっております。どうぞご理解のほど、よろしく願い致します。

◆ 標本館だよりでは、巻き貝化石ピカリアのレプリカ作りの様子が報告されました。それによるとイベント当日の来館者数が225名で、内133名が化石レプリカ作りを楽しんだということです。すごい人気ですね。

◆ 中澤さんには「知っておきたい斜面のはなし Q&A -斜面と暮らす-」の書評を書いて頂きました。

◆ 谷田部さんには、地質標本館特別展の紹介をして頂きました。

◆ 以上の通り、今月号も多彩な報告をお届けすることができました。次号以降も、ご期待下さい。また読後の感想などを編集委員会のメールアドレス(g-news@m.aist.go.jp)までお寄せいただければ、幸いに存じます。また、原稿を広く所内外から募集していますので、是非ご投稿下さいますようお願い申し上げます。(玉生志郎)

地質ニュース編集委員会

委員長：玉生志郎

副委員長：吉田朋弘

委員：高木哲一・丸山 正・七山 太・
光畑裕司・酒井 彰・高橋裕平

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754

Fax. 029-861-3746

地質ニュース

第620号 2006年 4月号

定価¥785(本体価格¥748) 千実費

2006年4月1日 発行

編集

発行人

発行所

産業技術総合研究所
株式会社 実業公報社
代表者 林 光生
株式会社 実業公報社
東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073
Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952
http://www.jitsugyo-koho.co.jp
E-mail:jk@jitsugyo-koho.co.jp
振替口座 00110-6-32466
麹町局私書箱第21号

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

©2006 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。